

走り続けること

継続すること

はぐるま

今年の寒さは大変厳しく朝の運動も身を切る

寒風の中、それでも

二十数年間欠かさずに

毎日続けている運動は

仲間たちの生きる力と

なっています。

この力は数年かけて

積み上げ培ってきたも

ので、長い取り組みが

ありました。

仲間と共に

目標に向かって

走り続けてきた結果が

今の仲間たちの姿です。

今年は

自分の目標にむかってやりとげる

・はぐるま新記録・自己新記録を出す

・10k・5K・1k 完走 その為に

〇〇さんについていく!!

〇〇さんと一緒に走る!

〇〇さんより先に走る!

かっこいいウォーキングでゴールする!

転ばないで歩く!

目標に向かって全力で向う姿から仲間から

メッセージが伝わってきます。

「力いっぱい」を

発揮し、結果を出す

為には、一日の努力

では成しえない!!

新記録賞 13名(自己ベスト)

【10キロランニングの部】

☆内田唯幸 44'24"

□塚原則之 47'56"

△丸山 勝彦 46'16"

◇飯島 梨沙 57'00"

☆関根 大 1'03'53"

□菅野 舞 1'05'19"

△斉藤 勇一 1'09'07"

◇岩瀬 浩一 1'07'59"

【10キロウォーキングの部】

○山岸 敦志 1'24'10"

☆大内美枝子 1'45'57"

□鈴木 優人 1'28'31"

△長原 綾 1'36'10"

【5Kウォーキングの部】

◇石暮 由美 1'00'17"



No.66号
2012年3月16日
社会福祉法人
はぐるまの会
広報委員会
後援会
川崎市多摩区菅馬場1-18-17
Tel 044-946-1308

拝啓 青山様

発表原稿

【十三浜との繋がり】

長原 綾

石暮 稚弘

はぐるまの会理事長 澤 俊男

昨年の三月に東北地方を襲った東日本大震災により、被災した十三浜の復興を希い決意しての「十三浜チャリティライブ」が新宿の関協ホールで催されました。

「はぐるま」からも大勢の仲間・父母・職員の方々が、家族や友人をともなうて参加しました。初めに仲間自治会より「わかめを通しての十三浜とはぐるま」をまとめたものを、代表が発表しました。

内容はもちろん態度もしっかりとしていて、来場者に大きな感銘を与えたに違いないと思えました。

現地の様子も映像等によって改めて知る事ができました。主催者である海藤さんにお話を伺い、苛酷な現地の状況の中でボランティアの方々への懸命な活動に改めて心を打たれました。このライブを通して十三浜の方々と仲間達の絆が益々強く深くなりますよう、お祈りいたします。

わたしたちの暮らす、神奈川県川崎市の多くの施設では長いあいだ、十三浜大指にある青山商店さんの、おいしいワカメとコンブを地域の人たちに販売してきました。はじめの頃は、親や近くの小学校のお母さんたちと一緒にワカメとコンブのサンプルをもつて、一件一件家をまわってお客さんを増やしました。お母さん達がバザーで販売をはじめた時から、20年以上がたった今では、十三浜のワカメとコンブのファンがたくさんいます。

また、ワカメの販売は、わたしたちの地域で暮らす力をつけるとてもよい勉強になっています。地図が読めるようになったので、お得意さんの家に配達ができるようになりました。電話のかけかたも上手になりました。

毎月、ワカメ新聞というチラシをつくって、私たちの活動の報告文が書けるようになってきました。ワカメ販売の仕事のおかげで、集金とお金の計算もできるようになりました。

私は平成12年6月に、14人のはぐるまの仲間たちと十三浜大指の青山さんご家族に会いに行きました。十三浜は、すごく時間がかかって遠かったけれど、海がとてもきれいで、青山商店さんもすごく海の近くにありました。

海の中には、ワカメがたくさんあるのを見えました。青山喜八郎おじいさんに、ワカメの収穫作業を見せてもらいました。十三浜で、ワカメとコンブが育つ海を見たことで、自信をもって神奈川県川崎地域のお客さんに売れるようになりました。

半谷吉弘

私は、ワカメとコンブのお得意さんを増やすための営業活動をがんばってきました。

月に2回、お客さんに電話かけをして注文を取り、注文数に合わせて青山商店さんに連絡をしてきました。

品物がきたら、まずカッポウギに着替えて、手を洗って、ワカメとコンブを袋に入れて、300グラムピツタリにします。

そして、シーラーで口を閉じて、値札をはって、300グラムのワカメとコンブの袋を10個ずつ大きな袋に分けます。

気をつけることは、新鮮なうちにおいしく食べてもらうため、できるだけ早くお客さんにお届けすることを目標にしています。

バザーの時には、なんと20個もまとめて買ってくれるお得意さんもあります。

石暮 由美

地震があつたので、青山さんに電話をすぐにしたけれど、なかなかつながらなくて、みんなですごく心配していました。そんな中、インターネットで青山さんのお知り合いの人から連絡があり、ご家族のみなさん全員無事だと聞いたので、仲間たちみんなですごく安心しました。本当はすぐに川崎の仲間たちみんなで青山さんのお手伝いに行きたかったけれど、家と仕事場がなくなって、今は大指に住めていなかったなので、行けませんでした。そこで、みんなで相談をして青山さんへの募金をすることにしました。

そして地域のお客様に1件1件みんなでもわり、募金をお願いにいき、みなさんこころよく協力して

くれて、たくさん集まりました。

私と旦那さんと職員さんで、青山さんに直接、募金と手紙と写真を渡しに行きました。青山さんに案内してもらいお店のあつた大指にいつて見えました。12年前にたずねたときの写真をよく見るので、実際に地震の後を見たら、建物は鉄骨だけになっていました。すごい津波だったんだなと思いました。

川崎の仲間たちからのお手紙や写真をファイルにして青山さんに渡しました。

すごく喜んでくれて、震災前のコンブがあるという帰りにたくさんいただきました。

青山さんに会いに行つた後は、募金のお届けの報告のチラシと、いただいたコンブを地域の人たちに配りました。今も地域のお客様に会うと、「ワカメの販売はまだかな？」と聞かれます。

9月に晴海の十三浜のチャリテイライブに行つて、青山さんのようすを知っている人がいて教えてもらったり、私達のことを話したりもしました。このときにやっと青山さんとなつたと思ひました。これからもずっと十三浜を応援していきたいです。

ご協力をいただいた皆様へ

「宮城県復興支援トーク&ライブ2012」は、大成功を収める事ができました。

当日は、満員御礼となり予定していたピザ焼窯の収益も無事に上がり、大成功となりました。イベントへの参加・ご協力をいただいた皆様はこの場をお借りいたしました心より御礼申し上げます。



3月3日復興支援ライブへ
仲間たちが参加をしてきました

今回のライブの中心メンバーである海藤さんから「はぐるまの仲間たちと十三浜との繋がりを是非、復興支援ライブで発表をしてみたい」と依頼された当初は、



満員のお客さんを前に、20年間に亘る十三浜の青山商店さんとの繋がりを見事に発表してきました。

アーティストのパフォーマンスを楽しむに
来場されているお客様に主旨が伝わるのだからか？と心配をしておりました。

しかし、そこは我らがはぐるまの仲間たちです。仲間たちの誠実な取り組み「青山募金」「お手紙・ファイルのお届け」を、会場中があなたたかく受け取ってくれ、被災地出身の関係者の方からは「とても素晴らしい発表だった。涙が止まらなかった」「わかめの販売をこれからも頑張ってください」とエールをいただきました。



フィナーレは出演者と会場全体で大合唱となりました！

主催者よりご協力いただいた皆様へのご報告をいただいておりますので、ご紹介いたします。

「3月3日のトークライブでは皆様にご協力いただき、大成功させることができました。

全席完売で、予定の収益も上がり念願の石窯作成が現実のものになりました。

ありがとうございました。

ライブの翌日の4日、早速基礎の部分を十三浜に震災直後入って海藤さんと一緒に活動していた山形の「俺に任せろ隊」の皆様と作り、5日には4人で雨の中、コンクリートを流し込んできました。

みなさんの思いでこのように実現できたことをこころより感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



その石窯も今月には完成予定で、石窯の隣には物産館も建てられることになったと、海藤さんから連絡がありました。

今年の夏は是非「十三浜音楽祭」をしたいと思っています。

これまでのトークライブは9月に晴海、3月に新宿とどちらも東京でしたので、今度は十三浜で十三浜の経済再建はもとよりピザを食べながら地元の方々を楽しみながら元気になれたらと…

震災から1年経っても、地元の方々は口々に何も進んでいないとおっしゃっていました。

十三浜の方たちはいつも明るく元気に振舞っていました。けれど今回おじゃまして被災者の涙を見ました。

ぶつけどころのない苦しみや悲しみといらだちと後悔と・・・様々な心の葛藤が1年経ったからこそ出てくる、まさしく復興はされていないのも同然と私も居た堪れない気

持ちでいっぱいになりました。

行政がとか、誰かがを待っているのではなく、私たちがこうしようという勢いで協力し支えていこうではありませんか。

実際、私もコンクリートの砂利をスコップですくいながら「私のこんな力が役に立っているのかな？誰かのためになってるのかな？」と・・・

自問自答しながら作業していました。

人間ができることとはほんとに小さいことしかできない、だから多くの協力が必要なのだと実感しました。

今後も十三浜の経過報告を兼ねて皆様にご連絡差し上げますが、どうかまた暖かいご支援を宜しく願います。皆様、ありがとうございます

nancy 榎戸



海藤節生さん

ミュージシャンです

十三浜相川地区「復興祭・春祭り」に参加し、ワカメの収穫体験をして来ました。港から3〜4キロ沖に養殖所があり綱を引き上げると、新物ワカメが沢山できていました、例年の7・8割程度収穫しても加工場が無いので、外作業道具も揃っていません。止めてしまう人もいる中で、踏ん張る漁師さんにエールをおくります!!

(船の先が大指・青山さん達の港です)



漁船に乗せていただき
「わかめの収穫体験」
をしました!

「わかめの加工作業」
部位ごとの分別作業も
教えていただきました

ご報告にありましたように、一人ひとり
できる事は、小さく限られておりますが、
はぐるまの会として、できる範囲内の小
さなお手伝いを今後も誠実に継続していき
たいと思います。

編集後記

「自然は尽きるものではなく、巡るもの」
と青山様より教えていただいた言葉通り、
十三浜の海には、豊かな恵みが戻ってき
ていました。(福田)

拝啓青山様

このような沢山の方との縁ができました
事を報告します。

復興は長い時がかかると思っていますので
私たちは見守り、できる事を、できる
範囲で共にしていく、お手伝いをして
いきます。

また笑顔でお会いしましょう

はぐるまの会一同